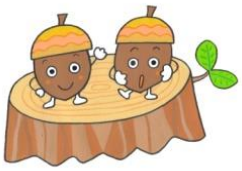

子どもの森づくり通信

（発行：ＮＰＯ法人子どもの森づくり推進ネットワーク）

ＪＰ子どもの森づくり運動
参加園月例会報
（2019年６月号）

〒146-0082 東京都大田区池上１－３－４　tel:03-5755-3213　fax:03-5755-3081
http://www.kodomono-mori.net　　mailto:info@kodomono-mori.net

「ＪＰ子どもの森づくり運動」とご縁をもたせていただいた方々に、
活動情報をお送りさせていただいております。ご意見など賜れば幸いです。

＜今月の１枚＞

梅雨の季節になりました。

この時期は、毎年、全国で豪雨・土砂災害が発生します。

十分にお気をつけ下さい。

写真は、福島県伊達市に植えられた東北の“どんぐり”の苗木です。

若葉が芽生えてくれました。

（目次）

１．JP子どもの森づくり運動「園庭の緑化運動」のご案内
２．事務局からのお知らせ
＊「どんぐり博士の育苗日記」～2019年6月号～

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」とは

今、子どもたちは、高度な情報化社会の中でバーチャルな環境に取り囲まれ、本物の自然体験活動から遠ざけられています。しかしながら、子どもたちは、変化に富んだ自然体験活動の中でこそ、五感を通じて豊かな感性や健全な環境意識、そして子ども本来の生きる力を育みます。「ＪＰ子どもの森づくり運動」は、NPO法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）が「日本郵政グループ」との協働体制で、全国の保育園・幼稚園・こども園を拠点に、一貫した森づくり活動を通じて幼児期の子どもたちに自然体験活動と環境学習の場を提供しようという全国運動です。

■「ＪＰ子どもの森づくり運動」運営体制

・運　　営　：ＮＰＯ法人子どもの森づくり推進ネットワーク（「子森ネット」）
・特別協賛　：日本郵政グループ
・後援/協力

（公社）全国私立保育園連盟　　（公社）大谷保育協会
（公社）国土緑化推進機構　　ＮＰＯ法人Ｃ・Ｃ・Ｃ富良野自然塾
（一社）日本森林インストラクター協会　　ＮＰＯ法人自然体験活動推進協議会
ＮＰＯ法人MORIMORI ネットワーク　　（一社）日本オート・キャンプ協会
（株）実業之日本社　月刊ガルヴィ編集部　　保育環境研究所ギビングツリー

１． ＪＰ子どもの森づくり運動「園庭の緑化運動」のご案内

JP子どもの森づくり運動が、10周年を踏まえ、これからの10年で取り組む新しいミッション“1本の苗木を植えることから始める”「園庭緑化運動」（仮称）のご提案です。今月号から3回に渡って、提案内容をお届けします。ご検討下さい。

今、保育・幼児教育において園庭を緑化し、子どもの自然体験フィールドとして活用しようという機運が高まっています。園庭を子どもたちにとって単なる運動場ではなく、自然体験を含む多様な体験を提供するフィールドとして改修していこうという運動です。ＪＰ子どもの森づくり運動においても、園庭を、子どもたちが植えた樹木を身近に観察できる有効な植樹フィールドと考え、保育園・幼稚園・こども園の園庭の緑化運動に取組むこととしました。

ここでの提案は、専門業者による大規模な園庭緑化ではなく、職員自らが“1本の苗木を植えることから始める” 手づくりの緑化活動です。東京大学大学院教育学研究科教授の秋田喜代美教授は「園庭を考えることは、園全体でひとつの園が大事にしたい価値や機能を考える大きなきっかけになります。」（「森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック」より）と述べておられます。それぞれの園で大切にしていることや、子どもたちが園庭に望んでいることを職員で協議し、確認して、それを主体的に実現する園庭の緑化運動です。

今月号では、保育における園庭緑化の意義について、校庭・園庭の環境づくりに長く取り組んでおられる**鶴見大学短期大学部保育科　准教授であり、「国際校庭園庭連合」日本支部（＊注） 代表　仙田考氏**に特別寄稿をお願いしました。同氏には、今後、ＪＰ子どもの森づくり運動が取り組む「園庭緑化運動」のアドバイザーをお願いすることとなっております。

●【特別寄稿】～園庭緑化と子どもの自然のふれあいの機会の大切さ～

鶴見大学短期大学部　保育科　准教授　　国際校庭園庭連合日本支部　代表　仙田考氏

園庭において、園の子どもたちがもっとも出会うべき大きな存在のひとつは、自然の環境です。幼稚園教育要領や保育所保育指針の領域「環境」のなかでも、生活の中で身近な自然にふれることの機会の重要性が繰り返し述べられています。

米国の海洋生物学者レイチェル・カーソンは、センス・オブ・ワンダー"（神秘さや不思議さに目を見張る心）を、子ども時代に自然の中で情緒や豊かな感性を育むことの大切さにふれ、そしてそれを分かち合う大人の存在について言及しています。地域環境から自然が失われつつある今、園の生活のなかで、小さくても子どもたちが関われる自然の環境や、子どもたちの自然にふれたときの驚きや発見の気持ちに共感できる保育者の存在が大切だと考えます。

卒園記念植樹

自然環境にはさまざまな自然が存在しますが、まず生き物が生息しうる場、草地や樹木、木立ちや森などについてふれていきたい思います。

たとえば草地。芝生や雑草が生えている草原などは、草・花・虫の宝庫となります。ネコジャラシで遊んでみたり、タンポポの綿毛を飛ばしたり、バッタ、カマキリを探して捕まえてみたり、観察したりできます。

さまざまな樹木があると季節ごとの変化が楽しめます。春の若葉、夏の緑は色濃く生い茂り、秋に紅葉し、そして冬に落葉します。木の花も白・黄・赤・紫など色とりどり、木の実もどんぐりや松ぼっくり、果物など食べられるものもあります。大きな桜やモミの木など、園庭にシンボルツリーがあっても良いでしょう。

樹木は1本だけでなく、何本かの木立ちや森があっても、子どもたちに楽しい自然あそびの空間となります。木々の周りをめぐってみたり、風に揺れる葉のさざめきを楽しんだり、木登りをしてみたり、落葉を集めた落ち葉プールで隠れたり寝転んだり、ツリーハウスがあると上から見渡すこともできるでしょう。

このような園庭環境での自然遊びを実践するためには、園や保育者による環境創生や環境構成が大切となるとなります。子どもたちが主体的に遊びを作り出すための自然の環境や素材、機会をどれだけ準備できるかによるのです。こうしたことは、自然の素材を揃えることで簡単に始められることから、園の子どもたち、保育者、保護者、地域みなさんで行う自然環境づくりによって、実現することができます。

正門前に花のプランターを置くことで、登降園の親子が咲いている花に関心を抱くかもしれません。卒園記念樹を卒園児みんなで植えることもよいでしょう。果樹であれば、その後毎年果実がなり、在園児たちを楽しませてくれるでしょう。園庭に小さな変化を作ることで、その後の子どもたちの自然への興味関心、遊び方はきっと変わってゆくことと思います。（左写真：サクランボ採り）

環境づくりだけでなく、日々の環境構成の工夫によって、新たな自然とのかかわり方が生まれます。たとえば、園庭に虫めがねを用意することで、子どもたちは虫めがねを樹木の葉っぱや幹、小昆虫や砂など、さまざまなものにかざすことで、普段見る世界とは異なる姿を発見することができるかもしれません。すり鉢やすりこぎがあることで、さまざまな色の野花を採り、水を入れてすり潰し、草花の色水遊びを楽しむこともできます。子どもたちが自然とふれあいたくなる、思わずやってみようと思えるような、仕掛け、素材や道具の選択・用意も、保育者の役割のひとつとして考えていただけたらと思います。

子どもたちは豊かな体験を通して育っていきます。安全面や植物、生き物への生育・生息環境への配慮を十分行いつつ、園の中で、子どもたちにできるだけ多くの自然との出会いの機会を心掛けてほしいと願っています。

＊国際校庭園庭連合　日本支部　International School Grounds Alliance -Japan(ISGA-Japan)

国際校庭園庭連合は、子どもたちの屋外での多様で豊かな学び、遊び、生活を目指して、校庭・園庭のさらなる積極的な活用及びそのための環境創生の推進・支援を行う団体・個人の国際ネットワークです。2019年に、仙田考氏を代表として日本支部が設立されました。

２．事務局からのお知らせ：「東北復興グリーンウェイブ」植樹活動報告

1)「東北復興グリーンウェイブ」での岩手県山田町「苗畑」への植樹活動が、下記の内容で実施され完了しました。

1)実施日：2019年6月12日(水)　10:00～11:00　　2)場所：岩手県山田町豊間根 「苗畑」
3)実施園：豊間根保育園（参加園児数：年長児19名）　　4)植樹本数：約120本

２）「東北復興グリーンウェイブ」福島県での活動レポートが、子森チャンネルにアップされました。
＊視聴方法：子森ネットホームページ　⇒子森チャンネル＆通信　⇒子森チャンネル
＊右のQRコードからもご覧いただけます。

●どんぐり博士の育苗日記(2019年６月号）～記念樹（ナツツバキ）～
我が家の庭のナツツバキ（ヒメシャラ）の花が、今を盛りと花を咲かせています。この木は、昨年鬼籍に入った母のお気に入りでした。　　子森ネット森林インストラクター：河内和男（どんぐり博士）

我が家への一般道からのアプローチは、敷地の北側からです。庭は南側に広がりアプローチからはほとんど見ることができません。しかし、駐車スペースの隙間だけ、アプローチ側から庭木を見ることができます。その特等席の真ん中に鎮座しているのが、３０年ほど前に母が知り合いから勧められて手に入れたナツツバキです。

ナツツバキが多く見られるのは西日本ですが、東北地方南部でも花をつけます。園芸用として、家庭の庭や、公園などでよく見かけます。この木の特徴は、滑らかでつややかな樹皮（斑文がある）で、サルスベリの樹皮と似ていますが、温暖な西日本では、サルスベリより赤くきれいな木肌になるそうです。そして６月から７月にかけて、清楚な白い花を咲かせます。この白くかわいい花が母のお気に入りでした。そして、その花が静かに開いていた朝に、母は旅立ちました。

申し訳ありません、柄にもなく湿っぽい雰囲気になってしまいましたが、このエピソードから強調したいことは、樹木の持つモニュメント力の強さです。モニュメント力という言葉は有りませんが、言い換えれば、何かの記念や記憶をとどめておく力です。車に乗り降りするたびに目に入る白い花が、これほど１年前の出来事や母のことを思い出させてくるとは、花が咲き始めるまで想像もしていませんでした。

今さら言わなくとも、各地にある記念樹の多さや樹木葬などが流行ることなどから、みんな気づいていたことと思いますが、この時期のナツツバキの紹介にあわせて、ここ数日感じていたことを述べてみました。